

観光ビジネス実務士教育課程ガイドライン

21. 4. 1 一部改正

本協会における観光ビジネス実務士の資格認定を受けようとする場合は、「観光ビジネス実務士」資格認定に関する規程をもとに教育課程を編成すること。更に詳しい授業内容については以下のガイドラインを参照のこと。

教育目標

旅行・ホテル・航空など、観光ビジネスの実務に関する基礎知識・専門知識に加え、それに必要とされる技術と実務能力を養成することを教育目標とする。

I. 必修科目

観光総論

現代社会に特徴的な社会行動・社会現象である観光の全体像、ならびに観光と社会の関わり、観光を支える社会システムなどについて学ぶ。(観光概論 など)

観光ビジネス論

観光事業の中核をなす交通業、宿泊業、旅行業の概況ならびに現代観光との関わり、公的機関が推進する諸事業について学ぶ。(観光事業論 など)

観光実務論

旅行・ホテル・航空など、観光ビジネスの実務に関する基礎的な知識について学ぶ。(観光ビジネス実務総論 など)

II. 選択科目

I 群「観光学」関連分野

観光政策論

観光地の経営戦略の視点から観光地としてのコンセプトの持ち方や導入方法、準民としての合意形成等について研究を行う。(観光行政論 など)

国際観光論

国際交流促進の観点から、国際観光の歩んできた状況を構造的に理解しつつ、その意義や効果・影響・課題ならびに促進に向けての手法を学ぶ。

地域観光論

特定の地域に関する観光資源および地域観光の現状と課題などについて学ぶ。(観光地域開発論、まちづくり論 など)

国際観光開発論

海外に於ける観光開発(行政主導の観光地形成や民主導のホテル・レストラン・交通機関・観光遊園施設・観光物産品の開発販売などの観光産業)の方法論を学ぶ。

観光経済学

観光の経済効果の捉え方やその諸側面を学ぶとともに、波及効果の構造に対する理解を深める。さらに国際収支や地域経済と観光との関わりについて学ぶ。

(観光経営論、サービス流通論 など)

観光マーケティング

マーケティングの一般理論ならびにこれまで他の分野で蓄積されてきたマーケティングの手法を使って、観光現象を解析し市場到達のための施策を立案する方法論を学ぶ。

旅行産業論

直接サービスを提供する観光産業（交通・宿泊・飲食など）とサービスを受ける消費者（旅行者・観光者）を繋ぐコーディネーター機能に関する理論と方法論を学ぶ。

（旅行業論、旅行業機能論 など）

交通観光論

観光のインフラの代表格の一つである「移動手段」を事業化した業態に関して、その存在意義・歴史・環境の変化・利便性の追求・運営の効率化などについて学ぶ。

観光施設

観光のインフラの代表格の一つである「観光対象」を事業化した業態に関して、その存在意義・歴史・環境の変化・利便性の追求・運営の効率化などについて学ぶ。

ホテル経営論

観光のインフラの代表格の一つである「宿泊施設」を事業化した業態に関して、その存在意義・歴史・環境の変化・利便性の追求・運営の効率化などについて学ぶ。

飲食産業論

観光のインフラの代表格の一つである「飲食施設」を事業化した業態に関して、その存在意義・歴史・環境の変化・利便性の追求・運営の効率化などについて学ぶ。

観光地理学

地理学とくに人文地理学の一般理論ならびにこれまでに蓄積されてきた地理学の手法を使って、観光地とそこでの観光現象を解析する方法論を学ぶ。

（観光地誌、仙台の歴史と文化、京の暮らし など）

観光文化論

文化人類学の一般理論ならびにこれまでに蓄積されてきた文化人類学の手法を使って、観光地とそこでの観光現象を解析する方法論を学ぶ。（観光文化人類学 など）

サービスの心理学

心理学的な知識を使い、観光に関するさまざまなサービス場面における問題点や解決方法、ホスピタリティについて学ぶ。

ホスピタリティ論

ホスピタリティの概念、ホスピタリティの構成要素、ホスピタリティインダストリー、ホスピタリティとマーケティング等ホスピタリティの基本概念を学ぶ。

観光資源論

観光地形成の基盤、観光地経営の動力源、さまざまな観光商品の素材となる「観光資源」の要件・本質・潜在競争力の深耕、そしてその発掘と育成の方法などについて学ぶ。（芸術観光資源論 など）

エコツーリズム論

風景の観賞や野生動物の観察などによって自然から学ぶことを目的とした環境観光など、観光が自然環境の保護・保全に果たしうる役割などについて学ぶ。

（グリーンツーリズム、環境ツーリズム論 など）

ユニバーサルデザイン

障害者や高齢者が安心して観光できる環境づくりや観光資源のバリアフリーについて学ぶ。

旅行医学

旅行中の病気・怪我に関する対処方法など、観光ビジネス実務に必要な基礎的な医学の知識や救急救命方法について学ぶ。

地域の伝統産業

地域の伝統産業を、観光地形成の基盤や観光商品の素材となる「観光資源」として捉えて、その本質・潜在競争力の深耕、そしてその発掘と育成の方法などについて学ぶ。

（京都の伝統産業、地域の地場産業論 など）

Ⅱ群「観光ビジネス」関連分野

観光ビジネス特論

ツアーコンダクターやキャビンアテンダントなど、観光ビジネス実務を行うために必要な知識や技能および現場における業務遂行やコミュニケーションの基本などを学ぶ。

(観光論特別講義、観光とホスピタリティ、ツーリズム・ビジネス、旅と交通、レストラン事業論、日本地理 など)

国際観光ビジネス

著名なリゾートの歴史的・経済的発展とその開発方法、経営技術とデベロッパー能力の養成技術について学ぶ。

観光関連法規

観光に関わる法律全般についての基礎知識を学ぶ。

旅行業法

旅行業法の目的、登録・営業保証金制度、旅行業務取扱管理者制度、旅行取引に関する諸規則、旅行業協会制度など、旅行業法を系列的に学ぶ。

旅行業約款

約款の目的、企画旅行契約(募集型・受注型)、手配旅行契約などの旅行業約款や、JRなどの運送約款、宿泊約款などを系列的に学ぶ。

国内運賃

国内旅行企画に必要な基礎的な計算、地方別・ジャンル別観光資源など、国内旅行実務の国内運賃ルールを系列的に学ぶ。

国際運賃

海外旅行企画に必要な国際航空運賃の基本的な計算、国別・ジャンル別観光資源など、海外旅行実務の国際運賃ルールを系統的に学ぶ。

宿泊約款

旅行実務内容や旅行業務取扱管理者を多面的に分析し、実践的トレーニングを行う。

観光フィールドワーク

少数の調査対象者への集中的なインタビューや、参与観察のようにあまり定型化されない方法で質的データを集め、その分析結果を言葉による記述を中心に報告する調査方法を学ぶ。

観光ビジネス実務演習(事前事後指導)

事前指導により、観光ビジネスに関する機関について一般的理解を図る。さらに実習中および実習直後の集団指導を通して理解の深化を図る。

観光ビジネス実務実習Ⅰ

旅行・ホテル・航空など、観光ビジネスに関する機関において、おおむね1週間の基本的実務についての実習を行う。

観光ビジネス実務実習Ⅱ

観光ビジネス実務の実態を学ぶため添乗補助を実践するなど、観光ビジネスに関する機関において、おおむね1週間の実務実習を行う。

旅行ビジネス実務

旅行ビジネス実務に必要なツアー・プランニングや観光マーケティングから旅行業の経営ならびにIT化など、旅行業を取り巻く諸問題をビジネスの視点で学ぶ。

(ツアー・プランニング、国内旅行実務 など)

旅行業演習

講義、模擬実技、研修によって旅行業の基礎を学ぶ。(旅行業概論 など)

トラベルコーディネーター

旅行会社の実態を把握し、ビジネスの現場で求められる旅行の企画力やコンサルティングについて学ぶ。(観光ガイドトレーニング など)

海外旅行実務

海外旅行商品のマーケティング、ツアー・プランニング、検索・照会・予約・発券などの販売窓口実務、対面接客による海外旅行商品の説明方法などについて学ぶ。

添乗実務

添乗実務の実態を学び、添乗に必要な指導力・演出力・コーディネート力などのスキルを身につける。

添乗演習

添乗業務の基礎ならびに添乗補助を実践する際に必要な要件を修得する。

女将論

女将の役割にふれながら、温泉旅館の成立・歴史、特に温泉経営とその今日的課題について学ぶ。

ホテル会計

ホテルを取り巻く利害関係や経済環境と簿記・会計の役割について学ぶ。

ホテルビジネス実務

高いホスピタリティマインドを持ってホテルや旅館のスタッフとして仕事に携わるために、サービスの基礎を修得し、ビジネスに必要なマーケティングや経営戦略、事業開発などについて学ぶ。

ホテル演習

ホテル業務の基礎を、講義、模擬実技、研修によって学ぶ。

F & B実習

ホテルやレストラン・バーなどでの料理や飲み物の提供サービス（テーブルセッティング・オーダー取り・配膳・給仕など）の基本的実務について実習を行う。（料飲サービス実務 など）

航空ビジネス実務

航空ビジネスの基礎を学び、空港における多様なビジネスについて理解する。加えて、現場で必要とされるスキルを明確にし、スキルアップのための能力開発を行う。

航空演習

航空会社の地上業務の基礎を学ぶ。地上職基礎講義、模擬実演、空港研修で構成される。
（航空実務論 など）

キャビンアテンダント実務

機内で働く従業員がお客さまにどのようにしてホスピタリティを発揮していけば良いかを考えさせ修得させる。

グランドスタッフ実務

航空会社の空港内地上勤務に関わる基本的な主要業務、ならびに JR など基幹交通機関の駅内勤務に関わる基本的な主要業務について学ぶ。

観光英会話

日常的な英語表現を学ぶとともに、観光の様々な状況に合わせて使用できる応用力ならびにリスニング力の向上や臨機応変な対話力を養成する。

Ⅲ群「ビジネス実務」関連分野

選択科目Ⅲ群にあつては、観光ビジネス実務士育成のための「ビジネス実務」教育であることを十分に留意し、原則として、本協会の「ビジネス実務関係教育課程ガイドラインの必修科目及び選択科目」を基に選定すること。